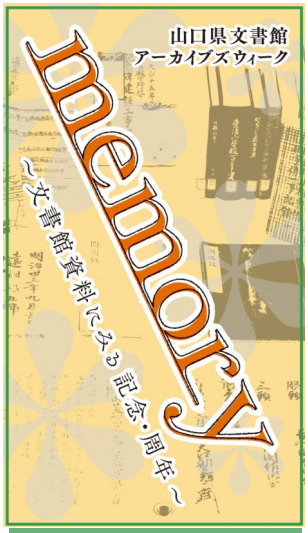


5

当館所蔵の山口県内小学校の開校100年史《一部》（文書館図書376）

あれから ⑤

学校創立記念日～記念式典・学校史編纂～

《10年の節目・100年の節目》

多くの学校で、学校創立後、10年ごとの節目で「創立○○周年記念式典」が挙行されています。その年には「創立○○周年記念文化祭」など、様々な行事に「○○周年」の冠がつけられ、特別な年としての意識が高められることとなります。

式典等を行う節目は10年ごとに置かれることが多いですが、50年や、とりわけ100年の節目は重く受け止められます。この節目にあわせ、各学校では学校史も編纂され、学校の歩みが振り返られるとともに、未来へ向けて気持ちが新たにされています。

《学制100年と学校100年史》

明治5年(1872)、学制が定められ、わが国において近代的学校制度が創設されました。これを機に各地で各種学校が開校していきます。県内の小学校の総数を見てみると、明治5年の34校の開校を皮切りに、明治6年には200校にまで増え、明治7年365校、明治8年653校、明治9年660校と漸次増えていきました。

昭和47年(1972)は、学制制定からちょうど100年の節目の年でした。これ以後、学制制定を機に開校した各地の小学校が次々と創立100年を迎えていきます。

各学校では創立100年を記念する行事や式典が行われ、100年の歩みを振り返る学校史も編纂されました。そのため、各学校の「100年史」の刊行年は昭和47年からの数年間に集中しています。上の写真は、当館が所蔵する県内の小学校の100年史の一部ですが、これらはいずれもこの時期に刊行されたものです。

これらの100年史には、校務日誌や古写真などの学校保有の資料が収められているのに加え、卒業生や旧職員の生の声を伝える数多くの回想記が収録されているのが特徴です。100年史が編まれた当時は、明治生まれの方も数多くご健在で、これに寄せられた回想記は、明治時代の学校生活のみならず、時代を伝える貴重な証言となっています。

各種学校の中にあって、とりわけ小学校は地域に密着しており、地域の文化を象

『山口県小学校の系譜』
田村哲夫著
昭和48年11月発行
(文書館図書376)

明治5年の学制頒布以後、各地で小学校が次々と開校していきます。

この本には、それ以前の寺子屋・私塾・郷校などの地域の教育施設が、どのように小学校開設につながったのか、また、それが出版当時の小学校へとどのように変遷していったのかがまとめられています。

徴する存在でした。例えば、小学校で行われる運動会は、来賓が招かれ、多くの見物人がつめかける、地域をあげての一大イベントでした。

100年の間、家族の中でも両親に加え祖父母を含めた3世代が同じ学校に通ったという家も珍しくはありませんでした。「小学校の思い出」という共通の話題で世代間の交流ができるのも、小学校が地域に根ざす学校であるからでしょう。小学校の歩みは、地域の歩みでもあり、100年の記念誌は地域の歴史を物語るものでもあります。

ところが、学制から150年を経過した現在(令和4年、学制150周年)、少子化の影響で急速に学校の統廃合が進み、各学校が保有していた資料の散逸が進んでいます。学校資料は地域の記憶を残す上で大変貴重です。「memory」をテーマにした今回のアーカイブズウィークをきかっけに、今一度、学校資料が持つ意義について、認識を新たにしたいものです。

《記念式典を行うタイミング》

節目となる年を記念する場合、その数え方には2通りあります。

一つは、創立年を起点にして、創立1年目、2年目、3年目……と回数を積み上げていく数え方で、「開校10年目」に当たる年は、当然その学校にとって大きな節目の年として認識されることとなります。運動会であれば第10回の記念運動会となるでしょう。

これは学校の創立記念に限ったことではありません。今回のアーカイブズウィークも第1回から回数を重ね、第20回の節目の年です。また、令和7年の今年は「昭和100年」という言い方がされることもありますが、これも昭和元年から積み上げての数え方です。スポーツの大会では10回ごとの節目の大会が記念大会となり、出場枠が拡大されることも、しばしばあります。

これに対して「○○周年」という場合には、創立日を起点にして満1年経過した時点を創立1周年と数えるのが一般的です。1周年、2周年、3周年……と数え、満10年となる11年目が創立10周年記念式典を行う年となります。学校の周年行事はこの数え方が多いようです。よって、明治5年に創立された学校は、1872年に100年を足した1972年、すなわち昭和47年が創立100周年の年ということになります。

次に、10年ごとの記念式典のタイミングについて、興味深い例を見てみましょう。

《県立西市農林学校と県立佐波農林学校》

県立西市農林学校(下関市豊田)と県立佐波農林学校(山口市徳地)は、第2次大戦末期、終戦のわずか4ヶ月前の昭和20年4月に、地域からの学校設立を望む声に加え、戦時中の食糧増産という使命を帯び、同時に開校しました。

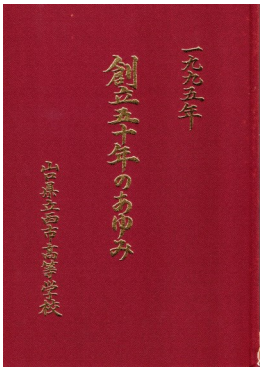
その後、県立西市農林学校は、県立西市農業高等学校、県立豊浦東高等学校、県立西市高等学校と変遷し、現在は県立山口農業高等学校西市分校となっています。県立佐波農林学校は、県立佐波農業高等学校、県立佐波高等学校、県立防府高等学校佐波分校と変遷し、令和7年3月に閉校しました。

同時に開校した２つの学校ですが、西市農林学校(西市高等学校)では、創立から満3年の昭和23年に創立3周年記念式典を行い、昭和30年に10周年記念式典、以後、昭和40、50、56年、平成7、17年に記念式典を行っています。新校舎落成式と同時に行われた昭和56年の35周年を除いて、10年ごとに記念式典が開催されています。

一方、佐波農林学校(佐波高等学校)では、開校から数えて10年目にあたる昭和29年に、本館落成記念と産業教育70周年記念にあわせて、創立10年の記念式典および各種記念行事が行われました。以後、10年刻みで、昭和39、49、59年、平成6、16年に記念式典を行いました。

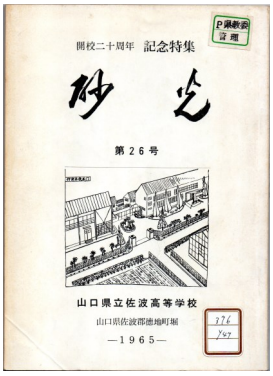
このように、西市高校と佐波高校は記念式典の開催年が、1年ずつずれています。

数え年で節目を祝うか、満年月で祝うかで実際の節目の年は両校で異なっていましたが、10年ごとに過去を振り返って今を位置づけ、未来に向けての展望を新たにするという、記念式典が持つ意義に何ら違いはありませんでした。



『創立五十年のあゆみ』 平成7年11月県立西市高等学校発行(文書館図書376Y73)

＊平成7年11月の創立50周年記念式典にあわせて刊行されました。豊富な写真と150名を越える同窓生・旧職員等からの回想記を中心に構成されています。



『砂光 第26号 開校二十周年記念特集』 昭和40年2月県立佐波高等学校発行(文書館図書376Y47)

＊『砂光』は毎年発行の佐波高等学校の学校誌です。この号には20年間の学校の歩みと昭和39年度に行われた記念行事が収められています。